

第6回 「統計エキスパート人材育成コンソーシアム」運営委員会 結果概要

(文責：コンソーシアム事務局)

【日 時】 2022年7月29日（金） 10:00～11:38

【場 所】 オンライン会議（ZOOM）

【参加者】 中核機関5名、参画機関5名、及び事務局（別紙のとおり）

【概 要】

● 開会挨拶

運営委員会委員長の椿広計統計数理研究所長より、プロジェクトの重要な取組のオペレーションについて忌憚のないご意見をお願いしたい旨、挨拶があった。

● 議 事

- 統計数理研究所 山下智志 副所長の議事進行により、以下の議題について審議した結果、異議や修正意見等は示されなかった。
 - 1 コンソーシアムの2022年度事業の実施について
 - (1) 第2回ワークショップの開催について
 - (2) 第2期大学統計教員育成研修の育成対象者の選考について
 - (3) 自己点検の実施方針について
 - (4) コンソーシアム会員サイトの運用について
 - 2 第1期大学統計教員育成研修の進捗状況等について
 - 3 参画機関の拡大について
 - 4 その他
- この審議結果を踏まえ、北海道大学の入会が承認されたほか、①2022年度のコンソーシアム事業の推進、②第1期研修第3クルールの円滑な実施、③今後の参画機関の拡大などを進めることとなった。
- 審議の概要は、以下のとおり。

【議題1 関連】

- ・ ワorkshopの開催に当たり、積極的な参加と周知への協力をお願いしたい。
- ・ 第2期研修の育成対象者選考方法は、第1期研修時の方法を明確化したもの。
- ・ 自己点検の実施に当たっては、運営委員会委員にもご協力をお願いしたい。
- ・ 会員サイトには、有益な情報を多数掲載する予定であり、積極的な活用をお願いしたい。
- ・ 会員サイトでは、担当者の名簿更新の手続きが行えるのか。
→ 現在は想定していない。有用であれば、今後、検討して参りたい。

【議題2 関連】

- ・ 研修内容が徐々に高度となり、充実してきた。研修修了後、育成対象者がそれぞれの分野で活躍することを期待。

- ・ 重厚なシニア教員の布陣となっていることから可能な研修内容。今後とも、研修生の負担と研修効果とのトレードオフの中から最適な方法を選びながら研修を進めて参りたい。
- ・ 育成研修は、充実した科目・授業内容と評価。この授業内容は、大学院科目に使用されていたものか。
→ ほとんどは、各シニア教員が新たに手作りで作成したものである。
- ・ 大学での育成対象者の講義が好評なことも研修の成果。メンターの皆さんの尽力に感謝。

【議題3 関連】

- ・ 北海道大学の入会はコンソーシアムの空白地域を埋める意味でも賛成であり、今後のメール審議の活用も賛成。入会のタイム・リミットは、いつまでか。
→ 今年または来年9月の研修応募期限までに入会が必要。
- ・ 本学の大学院関係では、機械学習に集中しつつある。博士課程では、大学教員よりも民間企業に魅力を感じている状況。
- ・ オンライン授業のスキルは、本研修においても必須と考えてよいか。
→ オンライン授業は、期末試験の解説や学会出張の補講などにメリットがある一方、学生の反応が分からないというデメリットもあるが、必須のスキルと言えるのではないか。
- ・ 本学では、産業数理統計部門を設立するなど、統計とデータサイエンス部門の取組を強化。昨年頃から統計関係の若手教員の応募が活発になっている。
- ・ 本学では、大学院全学共通の統計科目の設定など、大学院改革が必要であり、動画教材の活用なども検討。必要な人材の確保に苦戦している状況。
- ・ 統計プロパーの教員確保には本学でも苦戦。学部生では、1期卒業生はIT系への就職が多い一方、2期生は製造業など非IT系への就職が増加するなど、様々な産業界でニーズが高まっている。学生の意識としては、統計を強みにしたいとのこと。
- ・ 医薬部門では、エビデンスに基づいた分析が求められており、統計教員のニーズは高い。統計の人気・ニーズは、修士課程の学生では高い一方、博士課程では、学費等の問題もありそれほど高くないという印象。

【議題4 関連】

- ・ 文部科学省による令和3年度補助金額の確定調査において、参画機関が整備した設備備品等に関する適正な管理について注意喚起があり、具体的な対応を検討する予定。また、10~11月に文部科学省による活動状況調査・対面ヒアリングも予定。
- ・ プロジェクト期間（5年間）終了後の事業継続について、何か指摘等はあるか。
→ 公募要領には、5年後も含め10年間で500人の統計エキスパートを育成すると記載。また、中核機関では、DS施設を中心とした独自の後継事業も検討しているほか、文部科学省の中間評価の結果によっては第2期プロジェクト検討の可能性も考えられる。

(以 上)

別紙

第6回 統計エキスパート人材育成コンソーシアム運営委員会

参加委員名簿

令和4年7月29日

【中核機関】

- 椿 広計 (統計数理研究所長)
山下 智志 (統計数理研究所副所長)
千野 雅人 (統計数理研究所 大学統計教員育成センター長)
中西 寛子 (同センター 研修部長・研修主幹)
岩崎 学 (同センター 研修部 教育システム開発主幹)

【参画機関】

- 狩野 裕 (大阪大学 大学院基礎工学研究科 教授)
梶原 健司 (九州大学 マス・フォア・インダストリ研究所 副所長)
杉山 学 (群馬大学 数理データ科学教育研究センター 副センター長)
椎名 洋 (滋賀大学 大学院データサイエンス研究科 教授)
矢部 博 (東京理科大学 データサイエンスセンター長)

【事務局】

- 澤村 保則 (統計数理研究所 大学統計教員育成センター 統括部長)